

カワセミを追う



落水が集まる西側外周水路にかかる雑草の上から魚を狙うつもり



ぼんやりと青い部分が
カワセミの羽

カワセミを見たという記事覚えておられますか、その時は偶然だろうと思っていました。今年の秋に2度にわたって遭遇しました。

10月9日の早朝、市道わきの水路の中を飛んでいく青い背羽の小さな鳥を見ました。その鮮やかな羽の色はほかの鳥と見間違ふことはありません。



次の日からこの青い寶石のようなカワセミを写真にしようと、毎朝早朝水路の中や、水路の脇でカメラを構えて待ちました。待つときはなかなか現れませ

ん。5日目からは、水路の場所を移動しながら姿を追いました。落水側の外周路に出た時です。「ティー」とか「チー」とかいうような鳴き声とともに水面から青い羽の羽ばたきが飛び出しました。カワセミです。

そこから、次に止まった雑草の枝を見極めて、静かに近寄ります。しかし、すぐに気づかれて、次の枝に逃げていきます。手にしたカメラの望遠をロングいっぱいにして、忍び足で近づきます。

チャンスを逃さないように、シャッターは連続です。数十メートル先から狙いますが、小さな鳥です。なかなか

捉えられません。確かに止まっているはずの枝を狙ってシャッターを切りました。カワセミは、あつという間にどこかに飛んでいきました。その場で確認できるほどの鮮明な画像は望めません。

交付金額が修正

国県から交付金の訂正の通知が届きました。長寿命化事業については取り組み年度によって減額処理が行われています。当初の通知では25%減額です。

榎野川の浚渫の要望書を提出

8月14日の大雨の状況から、先の防災会議で榎野川本流の浚渫について要望すべきだという強い意見が出ましたので、山口市の担当課と相談して、関係する地区の関係者の同意書を添えて、県河川管理課に要望書を提出しました。

この要望がそのまま採択されるとは限りませんが、こうした意見を何度も発信することに意味があります。

自分の目で見て地域の自慢を学ぶ



9月30日、いよいよ一番大きな面積の稲刈りが始まる日、上郷小学校稲刈り見学研修がありました。2年生約90人が学校から2キロメートルの道のりを歩いてきました。

6月に田植えを見学し、約3か月で稲になりました。子どもたちの中には、田植えも稲刈りも知らない子もいるかもしれません。

確かにそういう学習もあるのですが、自分の育った地域のことを、しっ

稲刈りの作業の説明は法人代表の杉山さん稲のこと、機械のこと、児童の質問に対応

水筒と学習道具をもって歩いて来る小学生↓



かり学ぶことが大事なのです。こんな広さがあるのか、こんな色をしているのか、全てが彼らの経験になり、学びの栄養になります。
校長先生は「ここは山口県の中でもおいしいお米ができるところだよ。ちよつとマスクを外して匂いを嗅いでごらん。こ

れが稲刈りの匂いだよ。」
上郷小の児童が、いつかどこかで自分の見た稲刈りの様子を自慢してくれとうれしいですね。

稲わらを焼却処理

農事組合法人八方原の稲刈りは、天候に恵まれ、まさに予定通りに終えることができました。

法人では麦作に使用する圃場については余分な稲わらなどを処理するため、毎年、消防署の許可をもらって、焼却を行います。

かなり煙つたりするので、嫌がれるのでしょ。毎回、警察に通報がある



コンバインのカッターで稲わらは細くなるが

ウソ電話に騙されないように

ウソ電話詐欺の被害が止まりません。「なんで騙されるのだろう」と思われたことはありませんか。

警察関係の会議での情報です。据え置き型の電話「いえでん」での効率的な方法は常に留守電にしておいて、相手が要件を切り出して、知っている人なら通話に出る、怪しい電話には出ないという方法が効果を上げているとのことです。

携帯電話ではどんな場合でも、見た

このことです。申し訳ないですが、麦作のために欠かせないのです。

この番号の通話には出ない。本当に用事があれば、また呼び出すはずだから心配ないのです。

またショートメッセージに出てくる「荷物のお届けがあります」というのは全部ウソです。運送会社はそんなメッセージは出しません。パソコンメールに来る「なんとかのセキュリティに問題があります」も全部ウソです。とにかく怪しい電話、メールは全て無視しましょう。